

外国為替およびデリバティブに関する中央銀行サーベイ
(2013年6月末残高調査) について：日本分集計結果

○ 日本銀行では、このほど、わが国における店頭（OTC）デリバティブ市場の残高（2013年6月末時点）に関する調査を実施した。

—— 本調査は、各国の中央銀行等が、国際決済銀行（BIS）の取りまとめの下で3年毎に実施している。

1. 想定元本ベースの取引残高

○ わが国の2013年6月末のOTCデリバティブ取引残高（想定元本ベース）は、50.0兆米ドルと、前回（2010年6月末）比+27.2%の増加となった。

リスク・ファクター別にみると、金利関連取引が全体の84.7%を占めた。また、前回比では、金利関連取引、外為関連取引がそれぞれ+27.5%、+35.9%の増加となった一方、エクイティ関連取引、コモディティ関連取引はそれぞれ▲34.6%、▲48.2%の減少となった。クレジット・デリバティブは▲4.9%の減少となった。

商品別内訳では、金利スワップが71.5%と、引き続き最大のシェアを占めた。

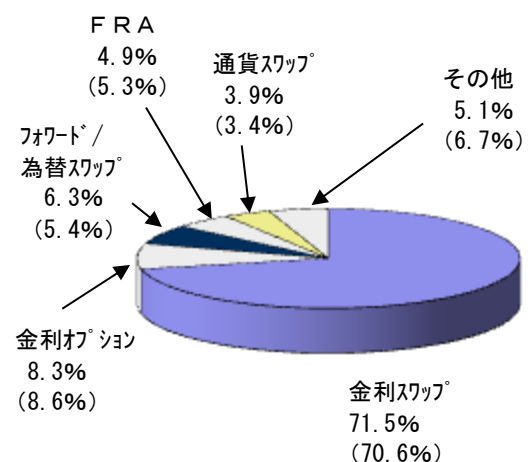
わが国における OTC デリバティブ取引の残高

(2013年6月末、億米ドル、%)

	想定元本	
		前回比
OTC取引合計（含む金関連取引）	499,818	+ 27.2
うち外為関連取引	64,545	+ 35.9
金利関連取引	423,266	+ 27.5
エクイティ関連取引	1,181	▲ 34.6
コモディティ関連取引	202	▲ 48.2
クレジット・デリバティブ	10,622	▲ 4.9
その他デリバティブ	3	+ 1,088.0

(注) 四捨五入の関係や合計には金関連取引が含まれていること等から、内訳の足し上げと合計値は一致しない。

OTC 取引の商品別内訳

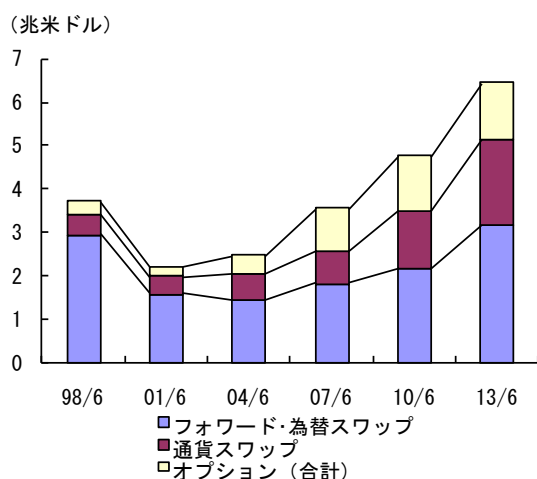


(注) () 内は、前回調査の計数。

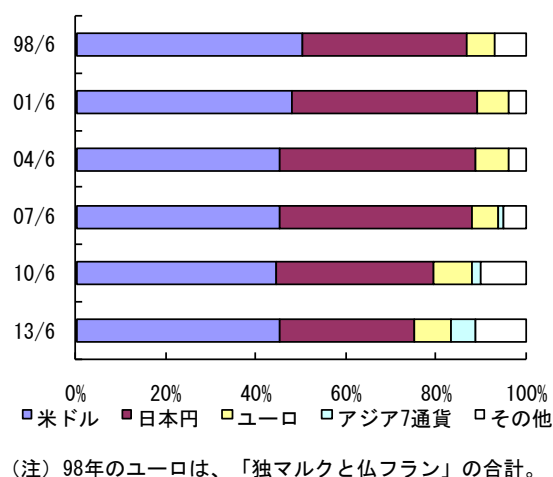
2. 外為関連取引の動向

- 外為関連取引（想定元本ベース）は、6.5兆米ドルと、前回比+35.9%の増加となった。通貨別内訳をみると、日本円のシェアが29.8%（前回34.8%）と低下した一方、米ドルのシェアが45.2%（同44.5%）と上昇した。なお、米ドル、日本円、ユーロ以外の通貨のシェアは16.6%（同12.0%）と上昇した。取引相手先別にみると、報告対象金融機関¹との間で行われている取引のシェアが69.2%（同63.7%）と上昇した一方、報告対象外金融機関との間で行われている取引のシェアが19.1%（同21.1%）と低下した。残存期間別内訳では、1年以内のシェアが66.7%（同43.3%）と上昇し、1年超5年以内のシェアが26.2%（同47.2%）と低下した。

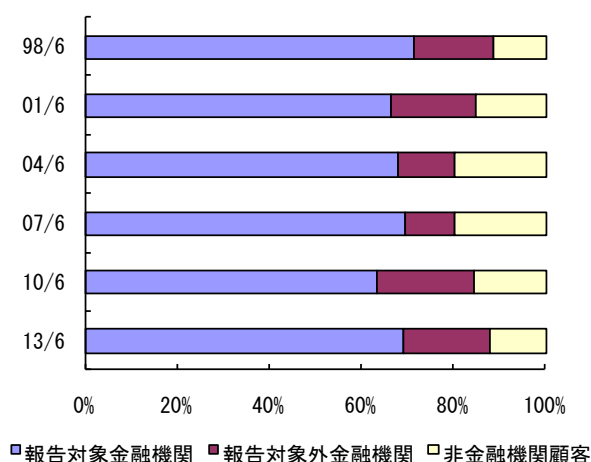
外為関連取引残高（商品別）



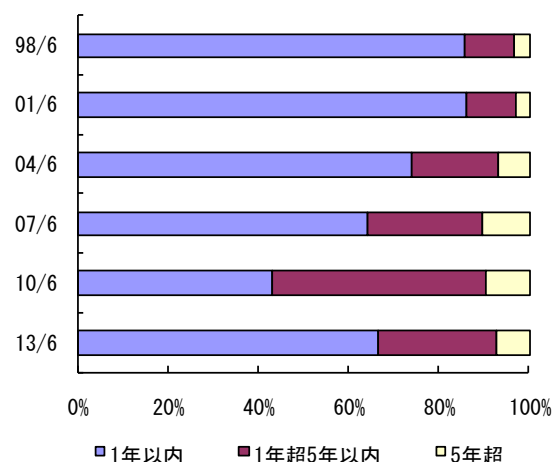
通貨別内訳



取引相手先別内訳



残存期間別内訳

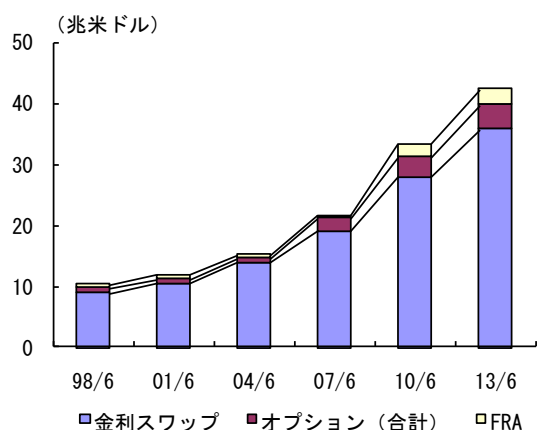


¹ 報告対象金融機関とは、半年毎に実施している「デリバティブ取引に関する定例市場報告」に参加する世界の主要金融機関。

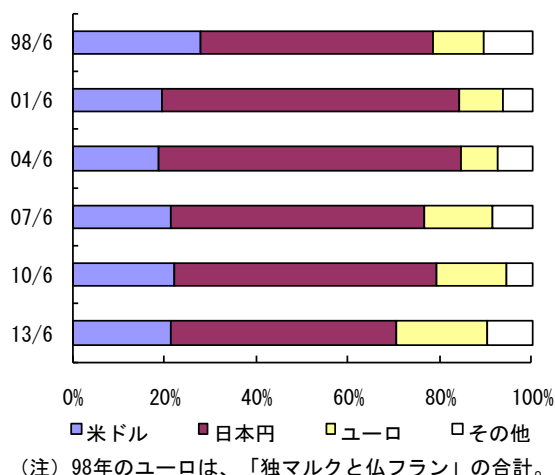
3. 金利関連取引の動向

○ 金利関連取引（想定元本ベース）は、42.3 兆米ドルと、前回比+27.5%の増加となった。通貨別内訳をみると、日本円、米ドルのシェアはそれぞれ 49.1%（前回 57.0%）、21.5%（同 22.2%）と低下した一方、ユーロのシェアは 19.9%（同 15.3%）と上昇した。取引相手先別内訳をみると、報告対象金融機関の間で行われている取引が 49.6%（同 79.9%）と低下した一方、報告対象外金融機関との間で行われている取引のシェアが 46.9%（同 16.3%）と上昇した。残存期間別内訳をみると、1 年超 5 年以下の取引のシェアが 43.9%（同 45.5%）と低下した一方、5 年超の取引のシェアが 25.8%（同 21.7%）と上昇した。

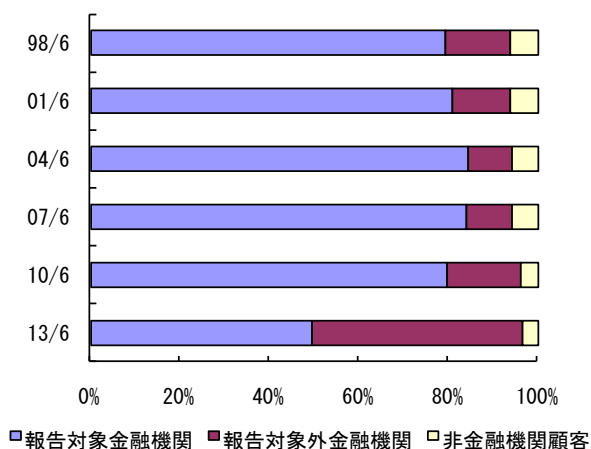
金利関連取引残高（商品別）



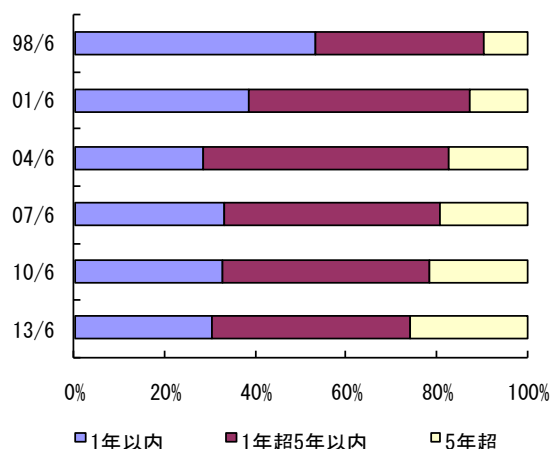
通貨別内訳



取引相手先別内訳



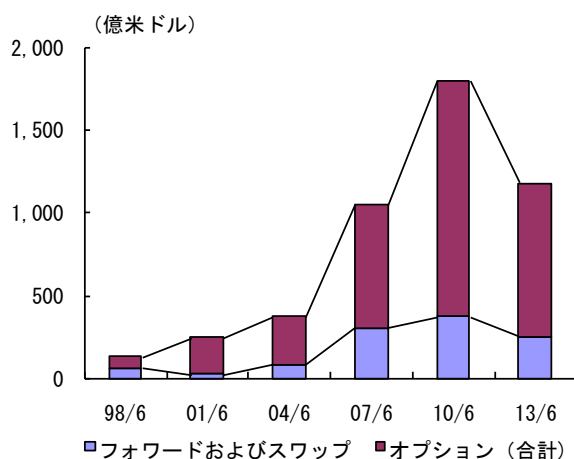
残存期間別内訳



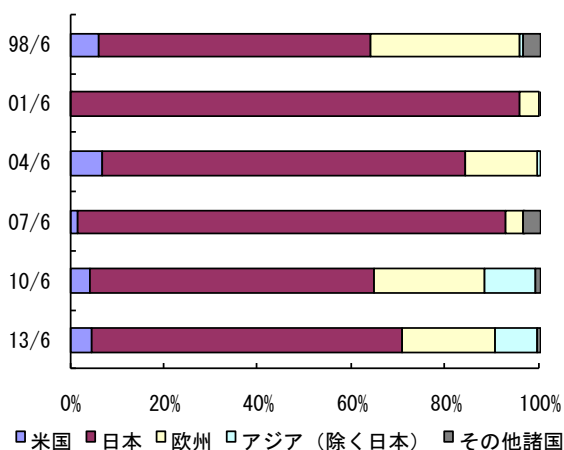
4. エクイティ関連取引の動向

○ エクイティ関連取引（想定元本ベース）は、1,181 億米ドルと、前回比▲34.6%の減少となった。市場別内訳をみると、日本市場関連のシェアが 66.1%（前回 60.7%）と上昇し、一方で欧州市場関連およびアジア市場関連のシェアがそれぞれ 19.8%（同 23.5%）、9.0%（同 11.0%）と低下した。取引相手先別にみると、報告対象金融機関の間で行われている取引が 68.9%（同 61.4%）と上昇した一方、報告対象外金融機関との間で行われている取引が 23.0%（同 31.9%）と低下した。残存期間別内訳をみると、1年以内のシェアが 36.9%（同 40.1%）と低下し、5年超のシェアが 23.2%（同 16.2%）と上昇した。

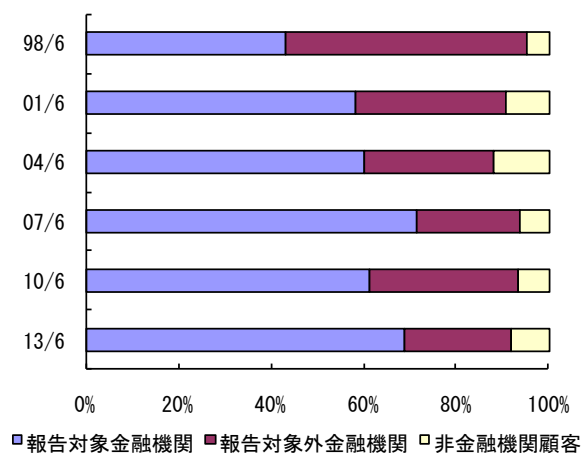
エクイティ関連取引残高（商品別）



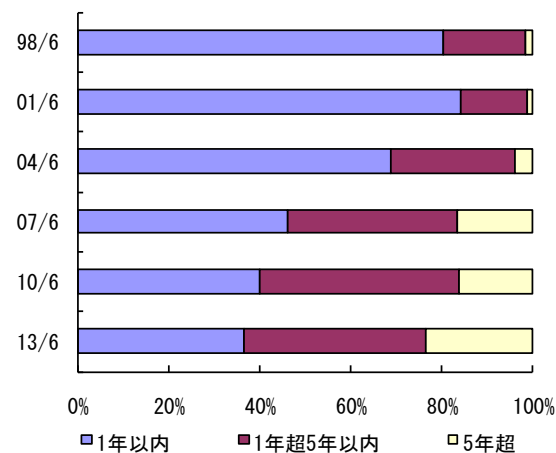
市場別内訳



取引相手先別内訳



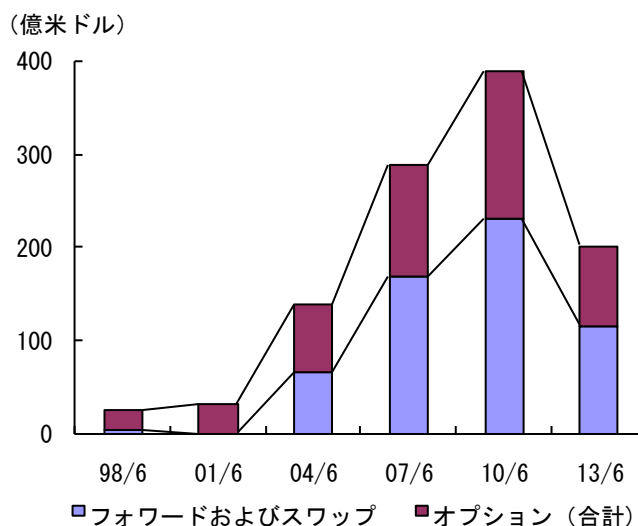
残存期間別内訳



5. コモディティ関連取引の動向

- コモディティ関連取引（想定元本ベース）は、202 億米ドルと、前回比▲48.2%の減少となった。

コモディティ関連取引残高（商品別）



6. クレジット・デリバティブの動向

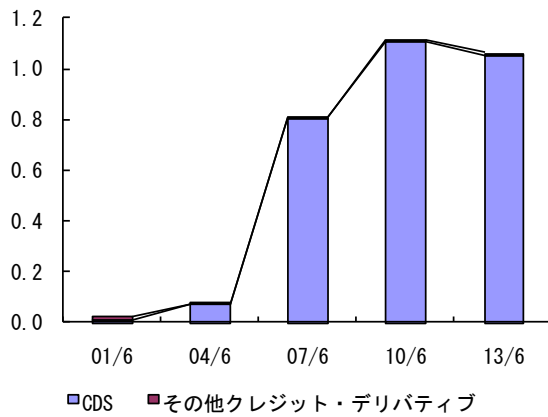
- クレジット・デリバティブ（想定元本ベース）は、1.1 兆米ドルと、前回比▲4.9%の減少となった。大宗を占める CDS の詳細をみると、商品タイプ別内訳では、マルチ・ネーム CDS²のシェアが 38.1%（前回 51.7%）と低下した。取引相手先別内訳では、シングル・ネーム CDS、マルチ・ネーム CDS とも、報告対象先金融機関との間で行われている取引がそれぞれ 89.3%（同 91.1%）、75.3%（同 87.1%）と、引き続き大きなシェアを占めている。報告対象外金融機関の内訳をみると、セントラル・カウンターパーティを含む「その他」との取引がそれぞれ 77.1%、86.4%と大きなシェアを占めている。参照組織別内訳をみると、シングル・ネーム CDS では、金融機関とソブリンのシェアがそれぞれ 46.3%（同 43.7%）、34.4%（同 25.2%）と上昇した一方、非金融機関のシェアが 19.2%（同 31.1%）と低下した。マルチ・ネーム CDS では、金融機関のシェアが 69.1%（同 0.2%）と上昇した一方、ポートフォリオ又はストラクチャード³が 24.7%（同 99.1%）と低下した。

² マルチ・ネーム CDS とは、複数の銘柄を参照組織とする CDS をいう。これに対して、シングル・ネーム CDS とは、単一銘柄を参照組織とする CDS をいう。

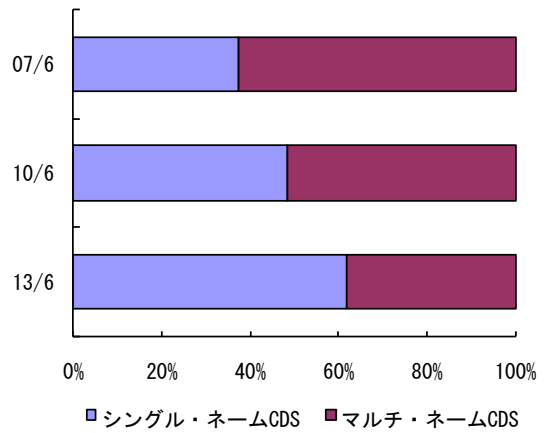
³ マルチ・ネーム CDS のうち、参照組織がセクター別に分類できないもの。

クレジット・デリバティブ残高（商品別）

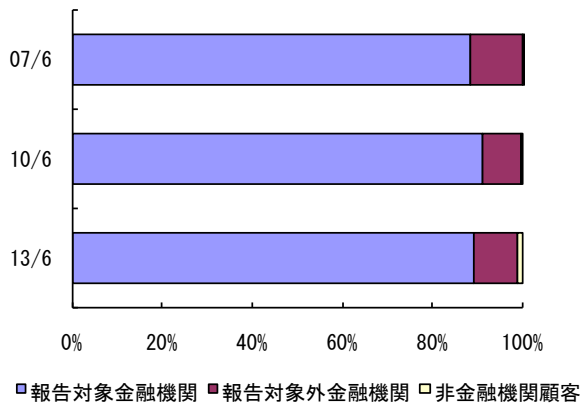
(兆米ドル)



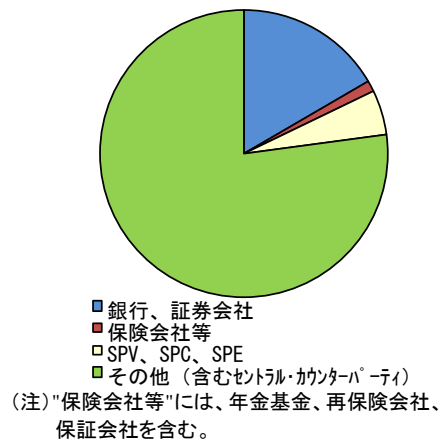
CDSの商品タイプ別内訳



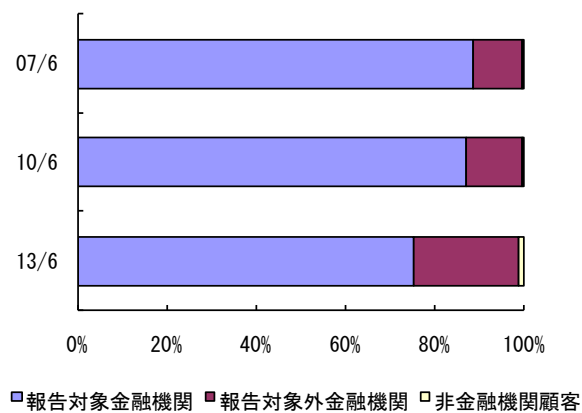
シングル・ネーム CDS の取引相手先別内訳



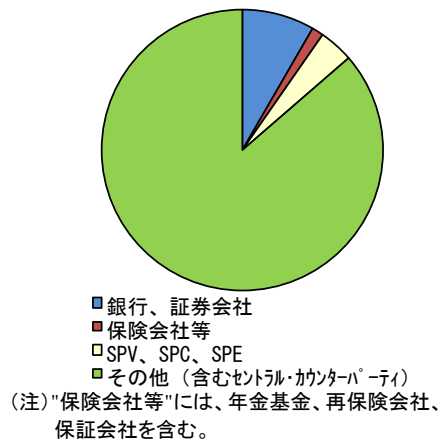
報告対象外金融機関の内訳 (13/6)



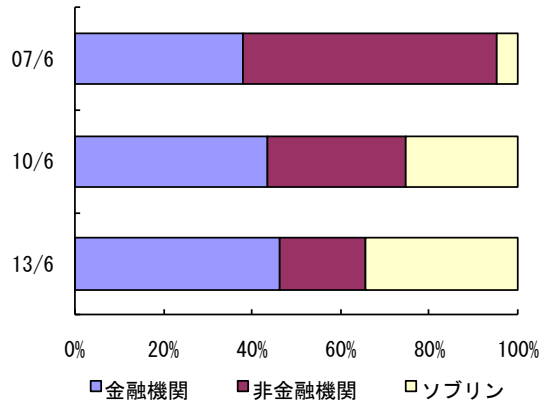
マルチ・ネーム CDS の取引相手先別内訳



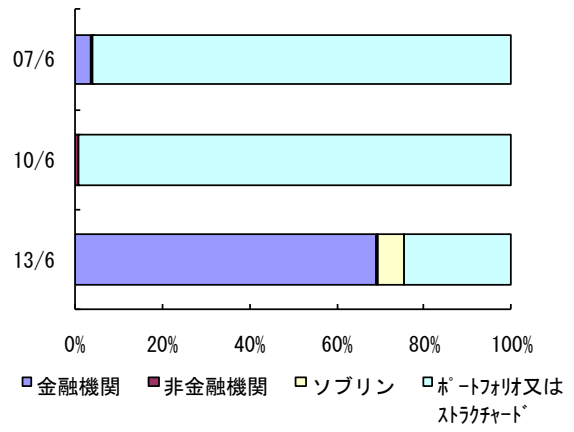
報告対象外金融機関の内訳 (13/6)



シングル・ネーム CDS の参照組織別内訳



マルチ・ネーム CDS の参照組織別内訳



以上

(参考) 外国為替およびデリバティブに関する中央銀行サーベイ (残高調査) の概要 ^(注1)

本サーベイは、各国中央銀行等が、BIS の取りまとめの下で、3 年毎に自国・地域のデリバティブ市場の残高について同時に実施している ^(注2)。本サーベイ (日本分集計結果) の取引高調査 (2013 年 4 月中) 部分は、既に本年 9 月 5 日に公表されている。

BIS では、デリバティブ市場残高については、6 か月毎に定例市場調査 (デリバティブ取引に関する定例市場報告) ^(注3) を 13 か国の主要ディーラーを対象に実施しているが、サーベイでは対象国を拡大している (今次サーベイでは 53 の国・地域の参加が見込まれている) ほか、より幅広い金融機関が参加している。今回のわが国の調査では、デリバティブ取引に関する定例市場報告に参加している主要ディーラー 17 先を含む、銀行等 21 行庫、証券会社 4 社からの回答を得た。残高調査は連結ベース ^(注4) の調査であり、日本での調査対象は本拠地を日本に置く本邦金融機関になる。

本サーベイを取りまとめている BIS は、参加各国・地域の調査結果を集計し、グローバル・ベースでの残高統計の集計結果を 11 月に公表する予定である (原文は BIS のホームページ<<http://www.bis.org/>>より入手可能になる予定)。また、BIS は、調査時点と同じくするデリバティブ取引に関する定例市場報告 (グローバル分) の集計結果も公表を予定している。なお、デリバティブ取引に関する定例市場報告の 2013 年 6 月末時点の日本分調査結果は、9 月 12 日に公表している。

外国為替およびデリバティブに関する中央銀行サーベイの残高調査およびデリバティブ取引に関する定例市場報告は、取引をリスク・ファクター別に①外国為替 (および金<ゴールド>)、②金利、③エクイティ、④コモディティ、⑤クレジット・デリバティブと大きく分類し、それぞれのフォワード、スワップ、オプション等別の想定元本 ^(注5) について、通貨別、取引相手先別に集計している ^(注6)。また、正と負の市場価値も集計している。外国為替および金関連、金利関連、エクイティ関連取引については、1 年以内、1 年超 5 年以内、5 年超の期間別調査も実施している。

また、2007 年 6 月調査より、クレジット・デリバティブの一部である CDS について、商品タイプ別や参照組織別の集計が拡充されている。

(注1) サーベイに関する解説や過去の公表文 (日本分集計結果) については、インターネット上の日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) 参照。

(注2) デリバティブ部分は、1995 年 3 月末から調査開始。

(注3) デリバティブ取引に関する定例市場報告の詳細は、インターネット上の日本銀行ホームページの解説参照。

(注4) 連結ベースとは、複数の取引地に所在する子会社や関連会社の取引を含むベース。

(注5) <外国為替および金関連取引>

・フォワード・為替スワップ、通貨スワップ、通貨オプション

<金利関連取引>

・FRA（金利先渡し取引）、金利スワップ、金利オプション

<エクイティ関連、コモディティ関連、その他デリバティブ>

・フォワードおよびスワップ、オプション

<クレジット・デリバティブ>

・クレジット・デフォルト・スワップ、トータル・リターン・スワップ、クレジット

・スプレッド商品、クレジット・リンク債、その他の商品

(注6) エクイティ、コモディティ、クレジット・デリバティブ、その他デリバティブについての通貨別内訳はない。